

れていくのが普通である。両者の区別は、教師の指導の観点や指導の過程などにあることをふまえて、学級担任による指導がすすめられなければならない。

(1) 学級指導の特質と指導上の留意点

指 導 の 觀 點	<p>学級集団の全員に共通する問題について、それぞれの児童生徒が、自分なりにどう解決すべきかという意志決定をさせるための共同思考をすすめさせ、自発的、自主的な実践活動を通して、望ましい個性の伸長と健全な生活態度の育成をはかる。</p> <p>※共同思考の場での話し合いにおいては、自分をみつめさせ、自分自身を問題にかかわらせて発言させ、思考させるようにする必要がある。</p>
指 導 の 過 程	<p>学級集団の全員に共通する問題に関して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己理解（自分のありのままを自分自身の力でとらえさせる。） ↓ ○ 自己表現（自分自身のありのままを話し合いで表現させる。） ↓ ○ 自己指導（自分自身の人間的な弱さを克服して、自分自身を向上させるための行動についての意志決定をさせる。） <p>※自分なりの行動のための意志決定をさせたわけであるから、授業の最後に教科指導におけるような意志決定の内容にかかわるまとめをしないことがたいせつである。</p> <p>授業後は、取りあげた問題の解決にかかるそれぞれの行動を観察し、自らの意志決定に従っているかどうか、その行動は望ましく変容しているかどうかをたしかめ、必要に応じて個別指導（教育相談）によって指導をすすめていくことがたいせつである。</p>
指 導 の 方 向	<p>授業場面においては、「自己内のコミュニケーション」を重視し、授業後においては、それぞれの意志決定に基づく行動をみつめ、指導の個別化をはかっていかなければならぬ。</p>

(2) 学級会活動の特質と指導上の留意点

指 導 の	<p>現にある学級内の問題を発見し、分析し、それを解決するために集団思考をすすめさせ、自発的、自主的な実践活動を通して、自主性や社会性を育てる。</p> <p>※学級集団として、それぞれの自由意志のまとまりということで解決の方法が集団</p>
-------------	---

觀 點	<p>の意志として決定されるので、そのための話し合いにおいては、学級集団の成員のすべてから活発な発言があったのちに共通るものを見出すことができるようさせる必要がある。</p>
指 導 の 過 程	<p>共同で解決しなければならない学級内の問題に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題の発見（学級としての問題が自分自身にもかかわる問題であるということをとらえさせる。） ○ 問題の分析（問題解決についての自分自身の意見を集団思考の場での話し合いの中ですぐに発表させる。） ○ 問題の解決（問題解決についての共通なものを見出し一集団の意志決定一、自分は何をどのようにすればよいかをはっきりととらえさせ、自分の役割行動をしっかりととれるように意志決定をさせる。） <p>※集団思考とは、問題解決のためのすじ道や手順、方法を明らかにするためにすすめるものであるから、授業の最後においては、「だれが」「なにを」「いつ」「どこで」「どのように」するのかを、はっきりと確認する必要がある。</p>
指 導 の 方 向	<p>授業場面においては、「個人対個人のコミュニケーション」を重視し、学級としての問題解決のための決定にそれぞれの役割行動が合致してとられているかどうかをみつめ、学級集団活動というところに視点において指導の一般化をはかっていかなければならない。</p>

(注) それぞれの詳細については学習指導要領及び特別活動指導書を参照のこと。

まとめ

学級指導では、端的に自己理解を促すことのできるような問題の本質を示している題材名（例、ぼくはテレビが大好きだ）と、題材と密接に関係がある児童生徒の実態からとり出された資料を重視しなければならない。

学級会活動では、集団思考が成立するような議題の性格を重視しなければならない。

個人の行動であれ集団活動であれ、動機づけの条件は・それぞれ現在の水準を上まわるものであること。

・それをした結果が向上というよろこびにつながると予測されるものであること。

・適度な困難性と実現可能性があること。

につきるものであるということができる。

生きている児童生徒を真に生き生きとさせるために、情熱を傾けた実践の累積をはかって、学級担任としての悔いのないあり方をするように努力したいものである。